

平成 26 年 2 月 25 日

清水町議会議長 加 来 良 明 様

清水町議会総務文教常任委員会  
委員長 原 紀 夫

## 所 管 事 務 調 査 に つ い て

常任委員会活動として行う所管事務調査について、このたび調査を終えたので、その結果を下記のとおり報告いたします。

### 記

1. 調査事項 小・中学校教育の現状について

2. 調査期日 平成 26 年 1 月 31 日

3. 調査の結果

本町の学校教育は、しみず「教育の四季」を基軸に各学校において教育目標を掲げ、家庭、学校、地域が連携して「感性あふれ 表情豊かな子どもの育成」を目指して進められているが、4 小中学校を訪問し、学校長から学校経営の目標や基調、重点的な取り組みなどの説明を受け、授業参観を行った。

【御影中学校】

(1) 学校概要

生徒数 62 名、普通学級 3・特別支援学級 1 の計 4 学級で、教職員数は養護教諭・事務職員を含め 13 名である。

## (2) 教育目標等

学校経営の目標は「保護者・地域に愛される ONLY ONE の学校をめざして」で、本年度、生徒の自己肯定感を高める指導に努めている。

## (3) 本年度の重点

### ①育てたい生徒の姿

- 心のこもった挨拶ができる生徒
- 自分の良さに気づき、自信をもって物事に取り組む生徒
- 進んで家庭学習に取り組む生徒
- 自ら仕事を見つけて行動する生徒

### ②個に応じたきめ細かな学習指導の充実

### ③漢字を正しく書き、使うことができる指導の充実

## (4) 特色ある取り組み等

①家庭学習は、年間 500 時間、一日当たり 1 時間 30 分を目標に取り組んでおり、約 3 割の生徒が達成している。

②御影地域の子どもは、保育所から中学校までほとんど同じ集団で過ごすため、競争心に欠けているとの指摘があり、積極性をつけることも課題にしている。

## 【御影小学校】

## (1) 学校概要

児童数 142 名、普通学級 6・特別支援学級 4 の計 10 学級で、教職員数は養護教諭・事務職員を含め 17 名である。

## (2) 教育目標等

「よく考えて表現できる子、心豊かでやさしさのある子、自らやりぬくたくましい子」を目標の児童像にし、本年度、みんなで学び合い伝え合いながら、意欲的に行動できる子どもの育成を重点にしている。

(3) 2学期からの「子どもの力をのばす7つの取組」

- ①基本的生活習慣では、あとかたづけ上手、掃除上手の子に
- ②心を育てる教育活動では、子どものいいところを探し、認め、励まし、自信をもたせる指導を
- ③自主的・主体的な学びでは、みかげ読書週間の取り組み
- ④たくましい体を育てる教育活動では、体を動かす場の広がり
- ⑤学習規律の確立では、話し方のルールを意識化
- ⑥教室環境の工夫では、子どもの活動の姿が見える掲示や展示の工夫
- ⑦学びの力を育てる授業づくりでは、ノートの工夫

(4) 特色ある取り組み等

- ①冬の避難訓練を実施し、避難場所・経路、安全対策、服装など、夏とは違う視点での指示を行っている。
- ②書くことの領域に弱点があるため、授業等で意図的に書くことを組み入れ、「書くこと」を重点に取り組んでいる。

【清水中学校】

(1) 学校概要

生徒数 184 名、普通学級 6・特別支援学級 4 の計 10 学級で、教職員数は養護教諭・事務職員を含め 20 名である。

(2) 教育目標等

本年度の基本目標は、「誇りと志をはぐくむ学校の創造」で、地域（ルーツ）に誇り、生徒に誇り（自信）と志（目的）をはぐくむ学校を重点目標にしている。

(3) 本年度重点課題

- ①意欲的な学びを広げる豊かで確かな学力の定着
- ②信頼の人間関係が支える豊かで健やかな心身の育成
- ③潤いとぬくもりのある豊かで美しい環境づくり

(4) 特色ある取り組み等

- ①義務教育を経て次のステップに行くとき、自分のルーツである

清水町を誇れる人、自分の知識・経験を広げられるような人を育てている。

- ②今の子どもは将来も学び続けることを求められており、学習習慣の定着が課題として挙げられ、家庭でのしつけが深く関わるため、学校だよりや参観日で親を育てることも行っている。
- ③いじめ防止対策推進法の施行があり、学校独自でいじめ防止基本方針の作成を予定している。
- ④校長講話の中で、教育課程にはない町歌の歌唱指導などを行っている。

## 【清水小学校】

### (1) 学校概要

児童数 326 名、普通学級 13・特別支援学級 5 の計 18 学級で、教職員数は養護教諭・事務職員を含めると 29 名である。

### (2) 教育目標等

目標の児童像を「進んで学ぶ子ども、美しい心をもつ子ども、終わりまでやりぬく子ども、体をきたえる子ども、みんなと力を合わせる子ども」として、愛と信頼を基盤とし、かけがえのない子ども一人一人を真に大切にした教育を推進している。

### (3) 具体的な目標

「しっかり学ぶ」「みんなの笑顔」「すこやかな体」のキーワードごとに、子どもと教員が具体的な目標を掲げ、実践しており、知・徳・体のバランスのとれた子どもの育成を目指している。

### (4) 特色ある取り組み等

- ①低学年は 3 クラス 20 人程度の少人数学級を編成しているが、本年度の 1 年生は 42 名のため、2 クラスの編成になっている。
- ②全国学力テストでは、清水小学校は過去数年、全国平均を上回る成績を収めており、全国トップレベルの成績の秋田県に勝るものもある。
- ③子どもたちでできることは子どもたちにさせており、本年度の

大規模改修でも、引っ越しは子どもたちが一生懸命働き、保護者の手をわずらわせないで実施した。

### 【総括】

学校経営については、しみず「教育の四季」を基本に、学校長を中心に教員と協議を行い、学校ごとに特色をつくりながら計画を立て、将来を担う子どもたちを育むことに一生懸命努力されている。

各学校の取り組みに関して、①自分を肯定することで自信と積極性が培われる、②具体的な家庭学習時間を設定することで、家庭と連携して学力の向上が図られる、③冬の避難訓練は新たな取り組みとして重要、④記述式の試験が増える中、書くことに力を入れることで表現力が高まる、⑤町歌を指導することで、自分のふるさとに愛着と誇りを持てる、⑥子どもたちでできることは子どもたちにやらせることにより、やればできるという自信につながるなどの意見が各委員から出され、これらの取り組みは、他の学校でも参考になり、町内の全学校に広げてもいいのではないかと思われる。

また、小学校での英語学習は、外部講師や英語指導助手が配置されて本物の発音に触れることができ、子どもたちが楽しいと思える授業が行われることにより、外国語に慣れ親しみ、コミュニケーション能力も養われると感じた。

小学校低学年での少人数学級の実施、特別支援教育支援員及び指導助手の配置、小学校と中学校の連携など、清水町独自の施策が展開されていることにより、学習面では全国学力テストでの好成績に結びつき、生活面では深刻ないじめがない良好な状態が維持されていると推測されるが、学校支援ボランティアをはじめ地域と連携した学校運営が行われている中、清水地区では約 50%、御影地区では約 70%の教員が町外から通勤しており、家庭や地域とのつながりを更に深め、育った町に誇りをもち、社会に貢献できる人を育てていくためにも、より多くの教員が地域に居住されることを望むものである。